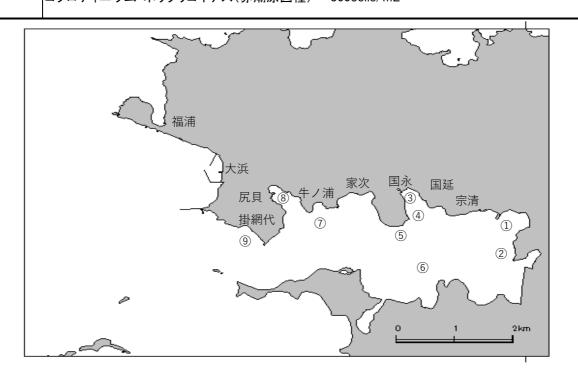
調査 年月日 令和5年6月12日 10:00~11:00 着色域 被害状況 ・ 発生年月日 場所 発生範囲 世期状況 ・ 発生年月日 場所 発生範囲 被害状況 ・ 下記のと 種類 小地点番号 ① ② ③ ④ 種類 300 50 450 0 300 カレニア・ミキモトイ 190 45 145 395 44 コクロディニウム・ポリクリコイデス 24 380 0 28 28		
発生年月日 場所 発生範囲 出現状況 岩松湾 下記のと 被害状況 - 種類 /地点番号 ① ② ③ ④ 採水層 1.4m 1.7m 1.0m 1.2m 1.0m 水温(°C) 切り 450 0 300 カレニア・ミキモトイ 190 45 145 395 44	なし	
出現状況		
石松湾 ト記のと 被害状況 - 種類	囲	
種類 /地点番号 ① ② ③ ④ 4 採水層 1.4m 1.7m 1.0m 1.2m 1.0m 水温 (°C)	おり	
採水層 1.4m 1.7m 1.0m 1.2m 1.0m 水温 (°C)		
水温 (°C) 450 0 300 珪藻類 300 50 450 0 300 カレニア・ミキモトイ 190 45 145 395 44	(5)	6
珪藻類 300 50 450 0 300 カレニア・ミキモトイ 190 45 145 395 44	3.0m	1.9m
カレニア・ミキモトイ 190 45 145 395 44		
	50	50
7/20 / - 0 / . + 1/2 7/27 24 200 0 20 20	0	2
	0	8
フィブロカプサ・ジャポニカ 1,000 380 2,180 140 140	20	70
	3,900	8,900
種類		
採水層 1.9m 2.5m 2.7m		
水温 (°C)		
珪藻類 100 150 200		
カレニア・ミキモトイ 15 95 4		
コクロディニウム・ポリクリコイデス 8 40 8		
フィブロカプサ・ジャポニカ 70 780 70		
その他鞭毛藻類 3,300 2,020 3,100		
単位 cells/ml		

最大395cells/mLのカレニア・ミキモトイが確認されました。 また、粘性物質を出し、魚類のへい死を引き起こした事例があるフィブロカプサ・ジャポニカも高密度で確認されています。 海色の変化に注目し、魚介類の管理には十分ご注意ください。

指導状況

【危険濃度】

カレニア・ミキモトイ(赤潮原因種) 1,000cells/mL コクロディニウム・ポリクリコイデス(赤潮原因種) 300cells/mL



着色域